学費の公私間格差是正、『私学も無償に』、就学支援金制度の維持・拡充、

私学助成署名推進ニュース

全国私私学助成をすすめる会(事務局：全国私立学校教職員組合連合)
No.44　2024年2月13日（火）

福井・仁愛女子高校で、生徒・父母・教職員の三者による私学助成学習会が開催されました。「なぜ学ぶのか」「なぜ学校に行くのか」という問いかけから始まった学習会で、教育の平等性・公共性の意味とともに、それを社会の共通認識にしていくための私学助成運動の意義を参加者が確かめる機会になりました。仁愛女子では、校内での私学助成署名活動に理解が得られない中、はじめての街頭署名行動も企画しています。

福井県私学の公費助成をすすめる会

すすめる会NEWS

Issue No. 6 ｜2024　2月号｜　私学助成運動学習会

私学助成学習会　開催！

先月１月２８日、市内フェニックスプラザにて、福井県私学の公費助成をすすめる会と仁愛女子高等学校の生徒が共同し、私学助成運動を学ぶ会を開催しました。講師には全国父母共同をすすめる会共同代表を務める山口直之氏をお招きし、私学助成の拡充をすすめていくための共通認識を確認し合うようなお話をいただきました。参加者は、現役生９名、卒業生１名、父母４名、教員２名の計１６名。生徒、父母、教員がともに学び合える初の機会となったのではないのでしょうか。

私学助成拡充をすすめる必要性を、①憲法や法律②教育③生存の三つの視点から語られました。福井県や全国の情勢を比較し、現在までの道のりを共有されました。福井県の多子世帯の授業料無償化を実現させたことは大きな前進となりましたが、それでも抱える課題は山積みで、自治体間格差や教員不足の問題を伝えられました。なによりも、私学助成運動は「子どもが安心して学び、生きていけるための取り組み」だとおっしゃられたのが印象的です。

公私間における学費の差は仕方がないとする社会を一度見直し、教育の平等性・公共性を社会全体の共通認識にしていくことが重要です。「知らないことを知っていく」ことが社会を良くしていく足掛かりになり、その学びの連鎖を広げていくことが私たちにできることだとおっしゃられていました。「私学だから学費が高いのは当たり前」「公立に落ちたのは努力不足だ」という風潮が誰かを傷つけている現状を知ってしまったら、権利を剥奪・侵害する社会のありようを見過ごすことはできないと再確認させられるお話でした。私学助成の拡充がすすめば、教育の質が向上し、社会の形成者としての市民づくりにつながっていく。山口氏は「教育は経済発展の手段ではない」と明示され、冒頭で氏が私たちに投げ掛けた「なぜ学ぶのか」「なぜ学校に行くのか」という問いの答えを見つけることができました。学びは権利であるということを主張しつづけ、この運動をぜひ広げていきましょう。

皆さんの感想（一部抜粋）

生徒Aさん

私学助成の活動やより良い学校づくりについて保護者の存在はなくてはならない存在だと自覚してきました。しかし、仁愛や福井県にはそのような組織などなく、（中略）どうしてもこの活動の意味を伝え、母にも仲間になってほしかった（中略）私学助成は教育の平等、そしてその先に教育についてみんなで考え、発展していくことができる運動だと思いました。（中略）私は今日とても楽しかったです。なぜかわかりません。でも、振り向いてくれなかった親と共にこの会に参加でき、そして生徒にもその生徒の保護者の方にも声をかけこの会を開催できたこと、すごく意味のある会だったのではないかな（略）

生徒Yさん

文部科学省は私たちのナカマなのかとふと気になりました。多分時間が経ってつながりの輪が広がったら、いつか国民全員がナカマになるのかなって思いました。ナカマを増やすためにも私は学んでいるのだといういことにも気づくことが出来ました。私自身学校で公に署名活動をしたいなと言うのが今の思いです。そう簡単にはいかないのは分かっているけれど署名にいけるクラスでも保護者の名前も書いてもらえるように推したり1人でも多くの生徒や先生に知って理解してもらえるようにもっと学びたいです。また私の家庭は対象外なこともあって今私学助成の活動が偽善のようにも感じる時があります。自分の将来の子供のためとか身の回りの友達のためとか考えながら活動したくても何故か実感がわかないからです。でも偽善でもいいから行動に移せているだけでも困っている人を助けることができていると信じています。仕方がないことだと思っていたけれど、話を聞いてもう少し早く知りたかった、でも今がそういうタイミングだったのかなと母は言っていました。悪く捉えれば私がもう少し積極的に話していたら去年はもっと前進していたのかなと思いますが、今知れたことで今後無関心でいることは避けられるし平和への第一歩になったと思うととても嬉しいです。

生徒Iさん

私学助成を実現させるにしても、学校教育を見直すにしても、今のシステムではかなり厳しいことばかり。根本から変化を起こさなければ本当に良いと言える結果にはつながりません。（中略）私に出来ることは、声をあげること、行動を起こすこと。全国にはすでに多くの仲間がいるし、福井にもその輪を広げていきたいと思います。（略）

父母Aさん

５年ほど前まで私立高校に子供を通わせていた知人に「私は毎月５５万円は授業料を払っていた。今は助成があってうらやましい」と言われたことがあります。自分はラッキーだとしか思っていませんでしたが、無償化になるまでには先人が時間と労力をかけ築き上げられたものだと知りました。感謝の念を抱くとともに、何かを成し遂げるためには、「そんなことできるわけがない」と思わず、声を上げていくことが必要なのだと感じました。そして、先人の苦労を人事と捉えず、自分たちもこのバトンをつないでいく必要があるのではと感じています。

文責：横山　和歌那